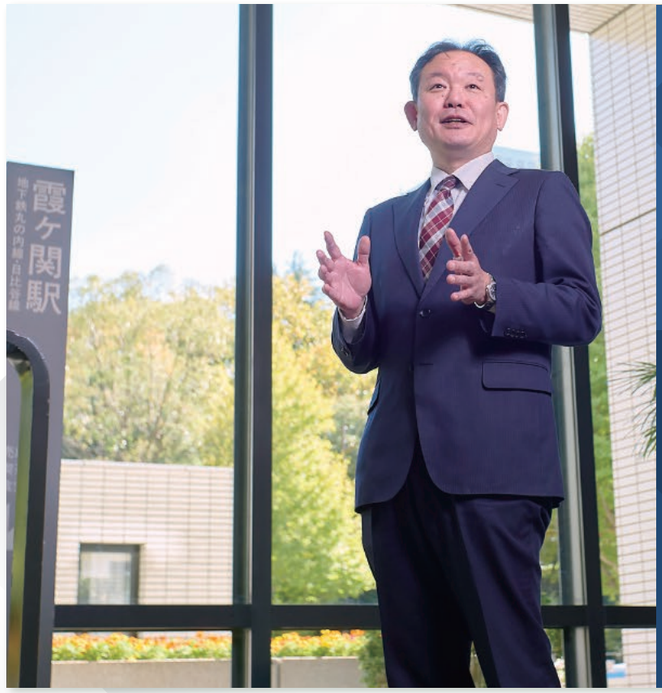

先輩薬系技官からの
MESSAGE

医薬局
医療機器審査管理課　課長
髙江　慎一
TAKAE　Shinichi

平成６年　入省
平成26年　医政局経済課課長補佐
（現医政局医薬産業振興・医療情報企画課課長補佐）
平成27年（独）医薬品医療機器総合機構医療機器審査第一部長
令和２年　大臣官房厚生科学課研究企画官
令和６年　現職

刻々と変化する社会、進歩する科学技術、その中で

薬系技官を志望されている皆さん、ようこそこのパンフレットを開いて頂きました！

我々薬系技官の業務は、一文に集約すると「大学までに学んだ専門的な知識をベースにして、刻々と変わる時代環境に合わせて法律や実務の枠組みを形作っていく」ことです。しかしながら、実際の行政の現場においては、机上での議論だけでは関係者の理解は得られませんし、社会にもそもそも容認してもらえません。何か制度や枠組みを変えるためには、多種多様な関係者から様々な意見を聞き、咀嚼して、必要な調整を行って実行に移すという段取りが必要になります。その中では難しい局面に立つこともあるかと思いますが、そこは先輩・同僚・部下と一緒に力を合わせて乗り越えていける職場の雰囲気があるなと思っています。

また、このパンフレットでも紹介しているとおり、薬系技官が活躍できる多種多様な職場があるというのも魅力の一つだと思います。一つのことに没頭することが好きな方も、様々なことに対応していくのが好きな方も、どちらの方も充実した仕事ができると思います。

私はこれまで医療機器の審査関係の仕事をする機会が比較的多かったのですが、様々な革新的な技術が医療機器に利活用されています。自動車で使われているワイヤーの最先端技術がカテーテルに転用されていたり、ゲノムやバイオ分野での最先端技術が次々に医療機器に利活用されていく中で、実際に医療機器を審査・承認するに当たっては、開発する側だけではなく、審査する側も最先端の技術の特徴をしっかりと理解した上で、医療現場の実態も踏まえながら適切な審査を行う必要があるということを医療機器審査第一部長になって心から実感しました。そのためにも開発ラボや工場、医療現場などにもできる限り足を運んで実態に触れるということに務めてきました。

また、前職の厚生科学課では、厚生労働省に関連する科学技術の司令塔としての役割の一端として、保健医療分野における人工知能（AI）の活用や科学技術予算のとりまとめなどの業務を行ってきました。科学技術はほぼすべての府省が関係する事案ですので、各府省をはじめとした関係者とのつながりが多数できるなど、今後の業務の幅が広がる職場でもあるなと思っています。

これまでに経験してきた他の職場でも、同じように新たな技術を理解することや、人のつながりが広がることにより、制度の枠組みを作り上げるという経験をできてきたと考えていますので、このパンフレットを読んでいる皆様にも、是非薬系技官の門を叩いて頂き、様々な職場で活躍して頂き、同じように達成感を味わえる仲間として一緒に仕事ができることを心待ちにしています。

キャリアパス

薬系技官は、幅広い経験を詰みながら業務の中核を担う
専門性とマネジメントスキルの持ったキャリアを築く環境が用意されています。

薬系技官として採用されると、おおむね２年ごとに部署を異動します※。
異動を繰り返しながら、様々な業務を経験してキャリアを積んでいきます。異動の頻度は多いですが、前任者からの業務の引き継ぎや、職場の上司や同僚のサポートもありますので、安心して仕事を進めることができます。

※部署によっていろいろなケースがあります

CAREER PATH

係員・係長

上司の元で幅広い部署を経験し、薬系技官として必要な知識を習得します。
若手から制度改正などの政策立案に積極的に関わることができます。他省庁や他の組織への出向、長期の留学の機会もあります。

課長補佐・専門官

業務の中核を担い、課題解決に向けた政策立案に関わります。
様々な部署で経験を積み、組織を総括する立場を期待されます。
関係部署と連携することも多く、これまでの経験が活かされます。厚生労働省以外の組織で仕事をすることもあります。

企画官・課室長

経験で培った広い視野と専門性をもとに、責任者として組織をマネジメントし、政策の方向性を決定します。
薬事分野、食品安全分野、医療分野など、薬系技官が関わる分野の第一線で新たな課題に対応します。

他機関への出向や海外留学

- 海外留学
- 他省庁
  内閣官房、経済産業省、文部科学省、環境省等
- 地方公共団体
  都道府県等
- 在外公館・国際機関
  大使館、WHO、JICA等